

令和 5 年 6 月 28 日現在

機関番号：32634

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19H01194

研究課題名(和文) 道教の洞天思想における聖地と巡礼の調査研究およびその東アジア思想文化史への影響

研究課題名(英文) A Study on the development of the concept of Daoist holy sites(Dongtian fudi) and pilgrimages to there, and the cultural influences to Japan, Korea and Vietnam.

研究代表者

土屋 昌明(Tsuchiya, Masaaki)

専修大学・国際コミュニケーション学部・教授

研究者番号：80249268

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、道教で洞天福地とされる聖地とそこへの巡礼について歴史地理的、思想的に検討し、その東アジア思想文化史への影響を考察した。現地調査として、複数の洞天と日本国内の遺跡に対する基礎的な調査を実施し、関連する文献研究をおこなった。その研究成果の報告書を計3冊、論文22篇、約340頁で印刷発行した。また、2021年12月に「中国の洞窟信仰とその展開」と銘打って、中国と日本における洞窟信仰について7名の研究者による研究討論会をおこなった。その他に、2017年3月にパリでフランス・中国の研究者と開催した会議の成果論文集(フランス語と英語による)をフランスで出版した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、従来研究が少ない「中国における聖地と巡礼」というテーマについて発展的研究を推進した。宗教思想史的研究だけでなく、研究領域の枠組みを超えた総合性を実践した。文献以外に、景観や自然環境、宗教施設(建築・彫刻・絵画)、宗教実践(巡礼、修道、儀礼)なども考慮した研究を産出した。中国の研究を国内に紹介するとともに、本研究の成果を続々と中国国内に発信した。また、フランスの研究者との共同研究を進め、日本の研究を英語・フランス語により海外に発信した。このような国際協働は、中国の聖地の環境保護とともに、日本の研究および中国研究の国際化と若手育成に大きく貢献している。

研究成果の概要(英文)：We examined the relationship between mountain worship as holy sites (Dongtian) and local Daoism and surveyed the network of Daoist sites located on mountains and pilgrimages to there. We also studied the historical development of this network. We surveyed four grotto heavens so-called small grotto heavens and studied their historical development. We compiled data on the present state of their Daoist monasteries and their local geographic features such as the overall landscape and caves linked to belief in the grotto heavens. Some of our findings have already been published in the academic journal Dohnten-fukuchi kenkyu No.9, 10, and 11, composed of twenty two academic articles.
And we also joined the international conference for applying the Dongtian to the world cultural heritage. Based on our research, the development of the concept of Daoist holy sites and pilgrimages can be found not only in China but also in Japan, Korea and Vietnam.

研究分野：中国哲学思想文学

キーワード：道教 洞天 山岳信仰 民間信仰 神仙思想 景観 思想史 歴史地理

1. 研究開始当初の背景

中国の仏教史研究に比して、道教史研究においては従来、信仰や宗教実践で重要な地である「聖地」と、信仰者や宗教職能者がその地へ赴いて何らかの宗教実践をする「巡礼」の問題は、意外にも看過されてきた。道教における「聖地」は、魏晋以前の山岳信仰と結びついた道教の洞窟概念にねざす「洞天福地」がそれにあたることが想定され、中国全土に散在する洞天がどのように聖地となったか、その歴史的展開が研究されつつあった。

2. 研究の目的

中国道教の聖地である「洞天福地」について、その概念の発生と発展、道教史との関わり、思想宗教における役割、文化史的な役割および東アジア文化に対する影響を解明することを目的とする。そのために、洞天福地の景観や自然環境を解明し、地理的歴史的に認識する。また、聖地の宗教空間の道観や廟、道士、その儀礼、地方神の信仰圏、道教と地方神に対する信仰との関係、巡礼ネットワーク、これをめぐる交通や経済活動との関連などを解明する。

3. 研究の方法

現地調査。文献にみえる洞天福地の現場に赴き、洞窟・景観や環境を観察するとともに、現在に伝わる金石資料の調査、現在おこなわれている宗教実践などを調査する。

文献および実物資料の研究。現地調査の対象に関する歴史文献や金石資料を読解し、当該の聖地の歴史的な展開を叙述する。道教だけでなく、地方神への信仰や仏教がその聖地に関わりを持つ場合もあり、その関係の文献および実物資料も分析の対象とする。

国際討論会の開催。洞天福地の研究における中国および欧米の研究の翻訳、国際討論会の開催を通して、新たな研究方法を模索する。

4. 研究成果

2019年6月に中国・福建省寧徳市で開催の「首届洞天福地研究与保護国際學術検討会」に参加。主催は清華大学の国家遺産中心と建築設計研究院で、各地の洞天福地を保護して世界遺産に申請するプロジェクトの一環でもあった。本会議参加者は土屋昌明、二階堂善弘、大形徹(分担者)、森瑞枝、酒井規史、大西和彦、廣瀬直記、石野一晴(協力者)である。土屋の論文「玄宗の道教と楊貴妃そして日本」、廣瀬の論文「二許と洞天」、酒井の参加報告記の3篇は、本研究の成果論集『洞天福地研究』第9号(2019年)に発表、大西の論文「ベトナム東北部ドンチュウ地域の福地《抱福巖》とその周辺」は同第10号(2020年)に発表した。7月末に土屋は、陝西省西安の西北大学で行われた学会で玄宗の道教の日本伝教について研究発表をした。また、9月に土屋と森瑞枝(協力者)が浙江省杭州・洞霄宮村にある大滌洞、天台県の天台山の現地調査、杭州における中国美術学院の講演をした。天台山では、唐の司馬承禎の修行地とされる石門坑を調査し、そこに摩崖石刻を見いだしたが、詳細は研究中である。10月末に土屋は、2020年3月に予定の日仏中国宗教研究者会議の打ち合わせ、および日仏共同の論文集の編集打ち合わせのためにフランスに出張した(この会議はコロナ禍のため見送りになった)。2020年1月に土屋が日光市の二荒山神社を調査、3月に土屋と酒井、廣瀬が栃木県那須町の修験道について現地調査をした。そのほかの研究成果は、上記の論文のほか、土屋は雷聞の論文「貴妃の師」を翻訳、廣瀬は「茅君内伝」訳注研究(1)、三浦國雄(協力者)の論文「墓室から洞天へ」を『洞天福地研究』第9号に発表した。

2020年度は新型コロナ禍により現地調査は実施できず、対面による研究討議もできなかった。成果としては、土屋「玄宗の道教における日本への伝教の契機と新羅」、翻訳として葛兆光「橋と枳の相違(上)」、李松「中国道教美術史第一巻序文」を『洞天福地研究』第10号として2021年3月に発行した。その他に土屋が「女性道士焦真静の巡礼」を日本道教学会『東方宗教』第132号(2020年8月)に発表した。分担者の大形徹は「富岡鉄斎と洞天福地」、同じく山下一夫は「第一大洞天と四大懷薬」、協力者の廣瀬直記は「茅君内伝」訳注研究(2)、森和也は「平田篤胤は《道教》を研究したのか」を上記報告書に発表した。

2021年度も新型コロナ禍により現地調査は実施できなかった。土屋ほかの翻訳になる李松『中国道教美術史 漢魏南北朝篇』を勉強出版から2022年2月に発刊した。上記2019年「首届洞天福地研究与保護国際學術検討会」の成果論文集が中国の科学出版社から発刊、大形、土屋、二階堂、廣瀬直記(協力者)、酒井規史(協力者)、大西和彦(協力者)、森瑞枝(協力者)の論文がすべて中国語で発表された。12月17日にFava監督「The Miaofeng Shan's Taoist Pilgrimage」を日本語字幕(二ノ宮聡訳)で上映し、討論をおこなった。翌12月18日に対面+オンラインで「中国の洞窟信仰とその展開」というシンポを開催し、土屋「中国の洞窟信仰とその展開の基礎的考察」、陶金(清華大)「洞天福地の原型」(酒井規史訳)、廣瀬直記「活動場所から見る六朝道士の輪郭」、大形徹「泰山と洞天福地」、横手裕「身中洞天説続考」、三浦國雄「明代の旅遊記に見る洞天観」、森瑞枝「平田篤胤と日本の洞窟信仰」の研究発表をおこなった。

2022年度の現地調査としては、日本への洞天思想の流伝を考える観点から、土屋が出雲大社

および周辺の遺跡を調査したが、中国への渡航はできなかった。翻訳として葛兆光「橘と枳の相違（下）」、チョン・ミン（佐藤厚訳）「許筠の『東国名山洞天注解記』と道教文化史的意味」、上記の Fava 監督のドキュメンタリーの字幕翻訳と解説（二ノ宮聡）、廣瀬「「茅君内伝」訳注研究（3）」を『洞天福地研究』第 11 号として発刊した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 土屋昌明	4. 巻 第9号
2. 論文標題 玄宗の道教と楊貴妃そして日本	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 洞天福地研究	6. 最初と最後の頁 112 - 121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 廣瀬直記	4. 巻 第9号
2. 論文標題 二許と洞天	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 洞天福地研究	6. 最初と最後の頁 37-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 廣瀬直記	4. 巻 第9号
2. 論文標題 「茅君内伝」訳注研究(1)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 洞天福地研究	6. 最初と最後の頁 55-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 雷聞	4. 巻 第9号
2. 論文標題 貴妃の師	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 洞天福地研究	6. 最初と最後の頁 19-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土屋昌明	4. 巻 240
2. 論文標題 洞天思想と謝靈運	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 45-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二階堂善弘	4. 巻 第71集
2. 論文標題 二十四諸天における仏道習合について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本中国学会報	6. 最初と最後の頁 135-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二階堂善弘	4. 巻 第3期
2. 論文標題 関公と足利尊氏 日本最古関公神像伝説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 道教学刊	6. 最初と最後の頁 177-186
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦國雄	4. 巻 第9号
2. 論文標題 墓室から洞天へ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 洞天福地研究	6. 最初と最後の頁 3-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二階堂善弘	4. 巻 第13号
2. 論文標題 『神仙通鑑』と『封神演義』の関係について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東アジア文化交渉研究	6. 最初と最後の頁 325-336
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二階堂善弘	4. 巻 245
2. 論文標題 華人の亡魂救済について シンガポールの中元行事を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 196-205
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土屋昌明	4. 巻 第132号
2. 論文標題 女性道士焦真静の巡礼	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東方宗教	6. 最初と最後の頁 25 ~ 49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土屋昌明	4. 巻 第10号
2. 論文標題 玄宗の道教における日本への伝教の契機と新羅	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 洞天福地研究	6. 最初と最後の頁 22-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 葛兆光	4. 巻 第10号
2. 論文標題 橋と枳の相違(上)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 洞天福地研究	6. 最初と最後の頁 3-21
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李松	4. 巻 第10号
2. 論文標題 中国道教美術史第一巻序文	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 洞天福地研究	6. 最初と最後の頁 116-125
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大形徹	4. 巻 第10号
2. 論文標題 富岡鉄斎と洞天福地	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 洞天福地研究	6. 最初と最後の頁 94-115
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 廣瀬直記	4. 巻 第10号
2. 論文標題 「茅君内伝」訳注研究(2)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 洞天福地研究	6. 最初と最後の頁 82-93
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森和也	4. 巻 第10号
2. 論文標題 平田篤胤は《道教》を研究したのか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 洞天福地研究	6. 最初と最後の頁 40-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下一夫	4. 巻 第10号
2. 論文標題 第一大洞天と四大懐葉	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 洞天福地研究	6. 最初と最後の頁 69-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二階堂善弘	4. 巻 第14号
2. 論文標題 真武型妙見の変容	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東アジア文化交渉研究	6. 最初と最後の頁 535-541
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下一夫	4. 巻 第19輯
2. 論文標題 台湾皮影戯『割股』考	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国都市芸能研究	6. 最初と最後の頁 5-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二階堂善弘	4. 巻 第54輯
2. 論文標題 明清期の瘟神と医神	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 関西大学東西学術研究所紀要	6. 最初と最後の頁 27-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二階堂善弘	4. 巻 第15号
2. 論文標題 『封神演義』に登場する神仙について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東アジア文化交渉研究	6. 最初と最後の頁 251-263
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下一夫	4. 巻 第123号
2. 論文標題 台湾皮影戯『高良徳』考	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 藝文研究	6. 最初と最後の頁 59-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下一夫	4. 巻 第21輯
2. 論文標題 當代浙江的濟公傳説	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中国都市芸能研究	6. 最初と最後の頁 32-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 土屋昌明
2. 発表標題 唐玄宗の洞天思想と道教對外伝教
3. 学会等名 首届洞天福地研究与保護國際學術檢討会（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 酒井規史
2. 発表標題 宋代遊記中所見の洞天福地 以茅山為中心
3. 学会等名 首届洞天福地研究与保護國際學術檢討会（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大西和彦
2. 発表標題 越南北部東潮地域の抱福岩及其周辺
3. 学会等名 首届洞天福地研究与保護國際學術檢討会（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 廣瀬直記
2. 発表標題 二許与洞天
3. 学会等名 首届洞天福地研究与保護國際學術檢討会（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石野一晴
2. 発表標題 明清時代羅浮山之隆盛与巡礼
3. 学会等名 首届洞天福地研究与保護國際學術検討会（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 二階堂善弘
2. 発表標題 中国における道教の成立と民間信仰の日本への影響
3. 学会等名 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群特別研究事業・第2回國際検討会（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 土屋昌明
2. 発表標題 中国の洞窟信仰とその展開の基礎的考察
3. 学会等名 中国の洞窟信仰とその展開
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 陶金
2. 発表標題 洞天福地の原型
3. 学会等名 中国の洞窟信仰とその展開
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 廣瀬直記
2. 発表標題 活動場所から見る六朝道士の輪郭
3. 学会等名 中国の洞窟信仰とその展開
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大形徹
2. 発表標題 泰山と洞天福地
3. 学会等名 中国の洞窟信仰とその展開
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 横手裕
2. 発表標題 身中洞天説続考
3. 学会等名 中国の洞窟信仰とその展開
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三浦國雄
2. 発表標題 明代の旅遊記に見る洞天觀
3. 学会等名 中国の洞窟信仰とその展開
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森瑞枝
2. 発表標題 平田篤胤と日本の洞窟信仰
3. 学会等名 中国の洞窟信仰とその展開
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山下一夫
2. 発表標題 A Confession of Yiguandao Believer in 1954
3. 学会等名 The Teaching and Knowledge of Salvation: The Discourse and Practice of Modern Chinese Redemptive Societies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Vincent Goossaert, tsuchiya masaaaki	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Blepols	5. 総ページ数 458
3. 書名 Lieux saints et pelerinages : la tradition taoiste vivante	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	横手 裕 (yokote yutaka) (10240201)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山下 一夫 (yamashita kazuo) (20383383)	慶應義塾大学・理工学部(日吉)・教授 (32612)	
研究分担者	鈴木 健郎 (suzuki takeo) (40439518)	専修大学・国際コミュニケーション学部・教授 (32634)	
研究分担者	大形 徹 (ohgata tohru) (60152063)	立命館大学・衣笠総合研究機構・教授 (34315)	
研究分担者	二階堂 善弘 (nikaido yoshihiro) (70292258)	関西大学・文学部・教授 (34416)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	三浦 國雄 (miura kunio)		
研究協力者	廣瀬 直記 (hirose naoki)		
研究協力者	酒井 規史 (sakai norifumi)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	大西 和彦 (ohnishi kazuhiko)		
研究協力者	森 和也 (mori kazuya)		
研究協力者	森 瑞枝 (mori mizue)		
研究協力者	高 万桑 (goossaert vincent)		
研究協力者	陶 金 (tao jin)		
研究協力者	葛 兆光 (ge zhaoguang)		
研究協力者	佐藤 厚 (sato atsushi)		
研究協力者	李 松 (li song)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	二ノ宮 聡 (ninomiya satoshi)		
研究協力者	雷 聞 (lei wen)		
研究協力者	石野 一晴 (ishino kazuharu)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
	中国	清華大学国家遺産中心	清華大学建築設計研究院	
フランス	Ecole pratique des hautes etude			